

自動車修理業における指導状況の調査

Survey of State of Tutelage in Auto Repair Industry

高井 由佳 (Takai Yuka)

自動車修理業は、エンジンや計器の点検や修理を行う自動車整備と、車体外観に関わる修理である自動車板金塗装に分類される。自動車板金塗装は事故等で損傷した車体を元の形状にもどすことが主たる作業である。板金塗装作業は 1 件 1 件の車体の状態が異なるため、マニュアルのない作業が複数存在し、熟練者が過去に受けた指導や経験を元に熟練者から非熟練者へと口頭で指導を行っている場合が多い。したがって熟練者の指導力や指導内容は一定の水準が保たれている保障はない。また、現場の熟練者からは、指導において「感覚的な作業の指導」や「非熟練者との円滑なコミュニケーション」が困難であるとの声が挙がっている。そこで本研究⁽¹⁾では、アンケート調査により自動車板金塗装業の指導者の置かれている状況を明確化することを目的とした。

アンケート調査は自動車板金塗装業に従事し、現在指導を行っている、または、過去に指導を行っていた技術者を対象とした。日本自動車車体整備協同組合連合会の協力を得て、日本全国の支部にアンケート調査を依頼する手紙を郵送した。アンケート回答には Google Forms を用いた。アンケート項目は、(1)アンケートに回答する指導者自身に関する項目（性別、年齢、勤務先の従業員数、これまで指導を行った人数）、(2)指導の状況に関する項目（指導が十分に行えているか、指導内容がうまく伝わっていると感じるか、非熟練者は上達していると感じるか、コミュニケーションをどのようにとっているか、指導で困っていることがあるか）とし、(2)の質問に対しては、その回答を選択した理由を自由記述にて回答させた。

アンケート調査の結果、61 名から回答を得ることができた。回答者は全て男性であり、平均年齢は 51.7 歳（±8.29 歳）であった。従業員数が 1～5 名の工場に勤務している回答者が最も多く、これまで指導を行った非熟練者の人数は 2 名が最も多かった。「非熟練者への指導は十分に行えていますか」という問いには、『十分ではない』という回答が最も多く約 56%を占めた。『十分でない』と回答した理由としては、『時間不足』を挙げる回答者が最も多く約半数を占めた。次に『指導者の数や力量の不足』を挙げる回答者が多かった。「指導内容がうまく伝わっていると感じますか」という問いには、『伝わっている』との回答が最も多く約 53%を占めた。『伝わっている』と回答した理由としては『非熟練者の上達が確認できた』との回答が最も多かった。一方、『伝わっていない』、『わからない』と回答した理由としては『上達がみられない』や『離職』を挙げる回答者が多かった。「非熟練者は日々上達していると感じますか」という問いは、『上達している』との回答が最も多く約 74%を占めた。『上達している』と回答した理由としては、『成長を実感する』が最も多く、次に『できる仕事が増えた』が多かった。「非熟練者とのコミュニ

ケーションはどのようにとっていますか（複数選択可）」という問いには、『積極的に会話をしている』との回答が最も多く、次に『指導時に話をする時間をとっている』との回答が多かった。「非熟練者の育成において困っていること」を自由記述で問うた質問へは、約半数は『困っていることはない』との回答であった。困っていることとしては『指導方法』、『年齢の違いによる意欲・意識の違い』が多く、次いで『入職者の減少』、『定着率の悪化』が多かった。今後は、アンケート調査から明確化された指導者の困り感を改善できる支援システムの構築を進める。

学内研究組織 研究題目

「属人的暗黙知の多いものづくり現場のための指導者支援システムの構築と検証」

参考文献

- (1) 高井由佳, 岸木翔太郎, 池元茂: “自動車修理業における指導の実態調査と指導者支援システムの提案” 教育システム情報学会研究報告 2023 年度第 4 回, pp.24-27